

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（1月）

留学先：The University of Findlay

氏名：本田 涼哉

一月に入り、春学期が始まると同時に留學生活の半分が過ぎました。秋学期に比べて忙しい毎日を送っており、疲労がなかなか抜けない毎日ですが、充実した毎日を過ごしていると思います。厳しい寒さが続く日々ですが、時折晴れる日もあり、比較的心地よく過ごすことができる日もあります。福井県では大雪に見舞われていることをニュースで知り、とても驚きました。それでは、報告に入ります。

◎Winter Break Trip

先月の報告書では、ニューヨークでの一人旅について報告させていただきました。今月の報告書では、冬休み旅行の後半、西海岸での旅について少し触れていきたいと思ひます。

後半からは、同じ福井大学から留学に来ている友人との再会を果たすことが出来ました。2018年のスタートはラスベガスから始まりました。初の海外での年越しでしたが、日本にいる時とは一味違った年越しになりました。日本での年越しは、「一年を振り返りながら、厳かに」という厳肅なイメージがありましたが、アメリカでの年越しは、一種のイベントとして捉えられていて、「友人と一緒に楽しむ時間」といった視点で見ていることが非常に興味深かったです。そのため、普段日本にいる時に感じているような、年の終わりと新たな年の始まりをひしひしと感じるということはありません、ただ年越しで盛り上がる瞬間を楽しんでいました。海外で、ラスベガスという異なる場所で年越しするという経験は留学に来ていなければ決して味わえないので、改めて留学に来てよかったと思ひます。

年末年始に友達と過ごし、それぞれの留学経験を共有することが出来ました。それぞれの場所で頑張っている話を聞くと自分にとって非常に刺激的でした。この冬休みの最大の成果は、自分の留学の目的を再確認し、自分という人間を見つめ直すことが出来たということです。みな、目的をしっかり持って日々を過ごしていると、話を聞いていて強く感じました。「自分は何のために留学に来ているのか」、「留学で得た成果をきちんと言葉にできるように毎日をかみしめて生きているのか」という自分自身に対する疑問が浮かび上がってきました。「自分は英語力を上げると同時に自分の将来の武器となるような知識や経験を積むために留学に来ている」ということを再確認することが出来ました。正直、秋学期の後半は、なかなか勉強に集中することが出来ず、怠惰な時間を送ってしまうときもありました。全く新しい環境にいるせいか、自分を見失ってしまうときもありました。しかし、今回の旅行に来たことで、自分のルーツを知る友人たちとアメリカという土地で出会えたことで、自分が忘れてしまっていた価値観を思い出すことが出来ました。

今学期は、留学にきている4人の友達に感謝し、目標を忘れずに食欲に何事にも取り組んでいきたいと思ひます。



@Spring Semester Class Schedule

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
ENIN451_01 Writing 9:00 ~ 9:50	ENIN451_01 Writing 9:00 ~ 9:50	ENIN451_01 Writing 9:00 ~ 9:50		ENIN451_01 Writing 9:00 ~ 9:50
SPAN121_01 Elementary Spanish II 11:00 ~ 11:50	MRKT326_03 Principles of Marketing 11:00 ~ 12:15	SPAN121_01 Elementary Spanish II 11:00 ~ 11:50	MRKT326_03 Principles of Marketing 11:00 ~ 12:15	SPAN121_01 Elementary Spanish II 11:00 ~ 11:50
	EDUC151_01 Ethnicity 14:00 ~ 15:15		EDUC151_01 Ethnicity 14:00 ~ 15:15	
T&F Practice 15:30 ~	EDUC423 Clubhouse 16:00 ~ 19:00	T&F Practice 15:30 ~	T&F Practice 15:30 ~	T&F Practice or Meet 15:30 ~

春学期では、合計16単位の授業を受講しています。前期と同じく、ライティングの授業は必須科目ですが、それ以外の授業は最低12単位、上限18単位まで受講することが出来ます。今学期は、マーケティング、民俗学、スペイン語、そしてクラブハウスという現地の小学生に英語を第一言語として教える授業を受講しています。スペイン語の授業のレベルは前期に比べて上がり、他の科目も、全く背景知識が無いまま受講しているので、毎日予習や復習に追われています。さらに、部活も火曜日以外は毎日あるので、くたくたになって机に向かうことが多いです。

特に大変なのが、クラブハウスの授業です。毎週授業の指導案を書き、教材を用意し、授業を先生として子どもたちの前で行います。ミニ教育実習がずっと続いていくような感覚です。さらに、第一言語として英語の読み書きを教えているため、授業で使う絵本の内容を理解するなど、アメリカ人の学生が準備する倍の時間をかけて準備する必要があります。なかなか大変ですが、毎回の授業は刺激的で何より英語で子どもと接するという貴重な体験を毎週させていただいております。言語が違いますが、子どもたちであることは変わらず、彼らに対する教育は非常に重要であることも変わりません。これからも真剣に子どもたちに向き合っていきたいと思っております。

(写真：小学校一年生に、一定の頭文字から始まる英単語は何があるか聞いているところです。)





今月の報告は以上になります。来月の報告書では、日常に焦点を当て、大学の施設を紹介したり、週末に参加したイベントなどについて報告したりしていきたいと思います。

冬休みの旅行で訪れたグランドキャニオン